

☑ 腹部超音波検査

腹部皮膚表面に超音波を発信する装置を当て、内臓からの反射波をその装置が受け取り、電気信号に換えてモニターに画像として映し出します。きれいな画像が得られるように、装置を当てる部分にゼリーを塗ります。肝臓、胆嚢、腎臓、脾臓、膵臓、大動脈を中心に検査を行います。各臓器のがんなどの悪性腫瘍を早期の状態で見つけることが目的です。その他、偶発的に見つかる良性腫瘍や、生活習慣に関係する脂肪肝、胆石、腎結石などさまざまな病変が描出できます。超音波検査ではお腹のガスが邪魔になることがあるため、スタッフは腹部の圧迫や体位変換など、多方向からアプローチを行い、よりよい画像が描出できるように努力しています。

☑ 乳房超音波検査

超音波を使って乳房内のしこりを描出します。しこりの内部や表面の状態から専門医が良悪性の判断を行います。乳がんは、早期に発見できれば90%の治癒が見込まれると言われており、乳房温存治療が可能になる、治療期間が短くて済むなどの利点があります。マンモグラフィ検査と違い、痛みはほぼありません。比較的若い世代の乳腺が豊富な方、妊婦さんや授乳中の方でも安心してお受けいただけます。くすぐったく感じる方も多くいらっしゃいますので、我慢できない場合はスタッフにお申し出ください。



息をいっぱい吸って勢いよく吐きましょう



☑ 肺機能検査

肺に出入りする空気の量や速さを測定して、肺の機能を評価する検査です。正確に検査するために精一杯息を吸ったり吐いたりしていただく必要があります。受診者の努力が必要な検査ですので、スタッフも大きな声で検査を誘導しています。肺の疾患には、間質性肺炎、肺線維症、慢性気管支炎、慢性閉塞性肺疾患 (COPD) などがあります。中でもCOPDは、認知度こそ25%程度にとどまりますが、日本人の死因10位以内に入っており、肺炎や肺がんなど重篤な肺疾患を引き起こす危険性もあります。そのため、早期発見と早期治療が重要視されています。

※ 2020年7月6日現在、新型コロナウイルス感染症対策に伴い、休止中です。

こんにちは!

検査研究センターです!

本会の検査研究センターの仕事をご紹介します。

生理機能検査科 — 人間ドック編

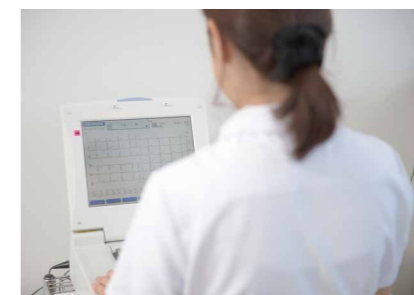


生理機能検査科は、職員、アルバイトを含め臨床検査技師36人が所属しています。人間ドックや来館での健康診断、職域の巡回健診、学校検診、地域健診などにおいて、心電図検査や聴力検査、肺機能検査、超音波検査の他、さまざまな検査を行っています。今回は、本会の人間ドックで生理機能検査科が担当している検査をご紹介します。

人間ドックの「基本コース」では心電図検査や肺機能検査、腹部超音波検査を、「オプション検査」では乳腺超音波検査や頸動脈超音波検査、血圧脈波検査、骨量検査を行っています。

☑ 心電図検査

左右の手足と胸部に電極を装着して、心臓の筋肉に流れる電気を体表面から記録する検査です。心臓の活動の様子を電氣的に捉え、グラフの形に記録することで、不整脈や心筋の血液循環不良 (虚血性心疾患) がわかります。身体に力が入ると心臓以外の筋肉の電気信号も心電図に混入してしまうため、胸部に装着する電極を温めておくなど、少しでも快適に受けていただけるように工夫しています。また緊張によりグラフが不安定になることがあるので、リラックスしていただけるような声かけを心がけています。



力を抜いていてください



頭部へ向かう血管を
ていねいに検査します



☑ 頸動脈超音波検査

超音波を使って首の両側にある頸動脈の血管壁の厚さや血管の狭窄、詰まりの程度を観察します。検査時間は10分程度で、ベッドに仰向けに寝た状態で検査を行います。全身の動脈硬化の程度を評価できるので、動脈硬化の早期発見に役立ち、進行具合もわかります。

安静が必要な検査です。
リラックスしてお待ちください



☑ 血圧脈波(CAVI)検査

頸動脈超音波検査同様、動脈硬化を調べる検査です。仰向けに寝た状態で両腕と両足首の血圧および脈波を計測することで、動脈の硬さ、詰まり、血管年齢を推定します。検査時間は5分程度です。“ヒトは血管とともに老いる”という言葉があります。動脈硬化は、放置すれば脳卒中や冠動脈疾患、腎硬化症などにつながる危険な状態ですが、残念なことに年々患者数が増加しています。動脈の硬化は、高血圧、糖尿病、脂質代謝異常などの生活習慣病によって加速する一方で、それらをコントロールすることで改善可能です。

☑ 骨量検査

超音波がかかとの骨を通過する速度を計測し、この計測値を基に骨密度を調べる検査です。骨粗鬆症の発見を目的としています。正常な骨では骨吸収と骨形成のバランスが取れているので、骨量が一定に保たれています。このバランスが崩れ、骨吸収が亢進した状態が骨粗鬆症です。長年の生活習慣が原因となることが多く、生活習慣病の一つと考えられ、中高年以降の女性に多く見られますが、若い女性にも少なくありません。検査は1～2分で終わります。結果は同年齢の平均と比べて何%なのかという形で表されます。

検査はすぐに終わります。
動かずお待ちください



当科では、より精度の高い検査が行えるように各種認定試験の取得や専門病院研修、各種学会、講習会などに参加し、日々研鑽を積んでいます。

また健康診断の超音波検査では、発見された症例について、後日、専門医の指導によるカンファレンスを行っています。

より精度の高い検査はもとより、受診者の皆様に気持ちよく検査を受けていただけるように、スタッフも元気な笑顔でお待ちしています。



小児健康相談室のご案内

検診で異常を指摘された子どもを対象に、専門医によるフォローアップを行っています

学校検診で異常を指摘されたけれど、近くに専門医がない。
軽微な異常で治療は必要ないけれど、定期的な経過観察は必要。
「小児健康相談室」では、そうした子どもたちを対象として、
専門医による経過観察、生活指導を行っています。

検査や診断には費用がかかります(保険診療)。
本会で学校検診を受けた方は、検査・検診時のデータを用いて診療や相談が可能です。

	腎臓病	心臓病	貧血	脊柱側弯症	肥満・コレステロール	思春期やせ症
担当医	村上陸美 日本医科大学 名誉教授	浅井利夫 東京女子医科大学 名誉教授	前田美穂 日本医科大学 名誉教授	南昌平 聖隷佐倉市民病院 名誉院長	岡田知雄 神奈川工科大学 応用バイオ科学部教授	鈴木真理 跡見学園女子大学 心理学部特任教授
外来日	第3木曜日 午前	第1木曜日 午後	第1水曜日 午後	第2月曜日 午後 第4金曜日 午後	第4月曜日 午後	第2木曜日 午後

前田美穂先生による
『貧血電話相談室』
養護教諭・保健師・看護師からの相談を
お受けします(無料)
開催日：第1水曜日 14時半～15時半



問い合わせ・申し込み

公益財団法人 東京都予防医学協会 地域・学校保健事業部
東京都新宿区市谷砂土原町1-2

03-3269-1131